

学校通信

学校生活における大切なお知らせです

8

2025 AUG.

第 267 号

学校長からのメッセージ

「いろんな学校のパンフレットを見て、YMCA だけは『好きなこと』という文字がなかったからこの学校に決めました」と今春入学した生徒が言いました。通信制高校 15 校目でやっと決めた YMCA。他にも理由はあったようですが、私にはこの言葉が印象的でした。

「本校で好きなことができる」「好きなことを徹底的にする」よくある謳い文句です。ですが、この言葉には「好きなことがあって当然」という価値観が感じられます。好きな事がない、見つからない、という生徒には辛い言葉でしょう。「あなたの夢は何ですか」という質問も、「夢があって当然」→「夢がないのはよくない」とのメッセージを送ってしまうことになりかねません。教育にたずさわる私たちは、言葉を発する時、相手がどのように受取るかを考えて慎重に選ばないといけないと戒めています。

YMCA 学院高校は開学当初から言葉や立ち位置にこだわってきました。たとえば、「進路指導」「生徒指導」と言わず「進路支援」「生徒支援」と呼ぶ学校。学校で使われる言葉「〇〇させる」「〇〇しなさい」は使わない。学校が上にあるような「登校」「下校」とは言わない。教員はお互いに先生とは言わない、生徒には「さん」づけする。校則や制服もなく、チャイムもならない。生徒たちには指示され、管理される“学校のイメージ”を変えてほしい。自分で考え、悩み、選び、解決の手段を見出す。そして、教職員や保護者と相談し、最後は自分で自分のことを決められる力を身につけてほしいと思っています。本校はそのための後押しをする学校でありたいです。

「2007 年生まれの 18 歳の半数が 107 歳まで生きる」とのデータがあります※1。人生 100 年を見据え、卒業後の進路だけを考えるのではなく、最期まで「生きていて良かった」と思える豊かな人生を送れるよう「生きる力」を本校で身につけるための学校であるため、授業以外にも様々な活動を行っています。

夏、多くの時間があります。新しいことに勇気をだして、一歩踏み出してください。、新たな自分を発見できるかもですね。単位認定テストも頑張りましょう。

(校長 鍛冶田千文)

※1 リンダ・グラットンら「LIFE SHIFT」,2016

「この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただきたい」

ローマの信徒への手紙 12 章 2 節





今月の聖句

「怠け者よ、蟻のところに行って見よ。その道を見て、知恵を得よ。蟻には首領もなく、指導者も支配者もないが夏の間にパンを備え、刈り入れ時に食糧を集める。」

(箴言 6章6～8節)

暑い日が続きますが、皆さんお元気でお過ごしでしょうか。あまりにも暑くて夏は好きになれないという方もおられるかもしれませんが、個人的には私は夏が好きです。理由はいくつかあるのですが、その一つと言えるのは、いろんな生き物と出会うことができるからです。特にいろんな昆虫と出会うことができるのは夏です。私が住んでいる河内長野というところは自然が豊かで、夏の間はいろんな昆虫を見かけます。子どもの頃から生き物が大好きだった私にとっては、最高のロケーションです。

そんな私が小学生の頃からやっていた遊びは、「蟻にパンくずを持たせて巣まで運ばせる」というものです。食パン一枚あれば、朝から晩まで遊べます。私が渡したパンくずをせっせと巣に運ぶ蟻の姿から、私は大切なことを教えてもらいました。小さなかけらでも、地道に集めていくことで、厳しい冬を超えるための力になるということです。私たちが日々見つけることのできる神様の恵みは小さなものかもしれませんが、でもそれを集めて心にためていくことで、試練を乗り越える力となるのです。日常に散りばめられた神様の恵みが、一つ一つ皆さんの心の中に蓄えられていきますように。



「今月の聖句」 自己紹介文 福島 義也

河内長野みぎわ教会の牧師で、YMCA 学院高校の非常勤講師をしている福島義也です。小さな虫から大きな動物まで、すべての生き物が好きです。車やバイク、音楽、スポーツも好きです。身近な所に散りばめられている神様の恵みを伝えていきたいと思っています。

